

ナンバリングコード B3LAA-cdeG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード:050101) 医療と法 Medicine and Law 医療と法 (Medicine and Law)	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 後期金2	対象年次 1～	
	水準 学士:応用科目 分野 高度教養教育 科目	提供部局 : 大教センター DPコード : cde	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義	単位数 2		
担当教員名 平野 美紀	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + レポート作成のための事後学習 45時間)				
授業の概要 近年、高度医療の発達と共に患者の権利意識の高まりを背景として、医療と法の学際領域は広がりを見せ、また、医療過誤訴訟が増加するなど医療者の側にも法的な知識を身につける必要性が高まっている。本講義では、専門を異にする法律の実務家および研究者が、オムニバス形式で、医療者にとって有用と思われるそれぞれの専門分野ごとのテーマについて、できるだけ専門用語を用いず、法的問題とその背景について、概説する。				
授業の目的 法律に関する基本的知識を習得した上で、医療臨床現場で役立つ法的知識やその背景を理解し、医療をめぐる様々な法的問題を考察する能力を身につける。				
到達目標				
1. 法律に関する基本的知識を習得することができる: 共通教育スタンダードの【問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力】に対応。 2. 医療臨床現場で役立つ法的知識や倫理的観点を身につけることができる: 共通教育スタンダードの【倫理観・社会的責任/市民としての責任感と倫理観】に対応。 3. 地域社会での医療そのものとそれに関連する領域に関する知識と関心を高めることができる: 共通教育スタンダードの【理解/地域に関する関心と理解力】に対応。				
成績評価の方法と基準 詳細は初回授業で説明するが、毎回のコメントカード90% (到達目標1・2・3)、最終レポート10% (特に到達目標の1) で評価する。コメントカードは、授業の内容を理解したうえで、自分なりの考えをきちんと書いているかで評価する。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
授業計画 ●この科目はすべての授業を遠隔で行います。 ○講師の都合上、順序を変更する可能性があります。 (1) ガイダンス/医療と法に関する基礎知識・概論: 医療と憲法・民法・刑法・行政法との関係 (2) 患者の同意の法的位置づけ: いわゆるICを中心に、患者の自己決定権を考える (3) 末期医療と患者の同意: 脳死、尊厳死、安楽死 (4) 末期医療と患者の同意: オランダの安楽死事例 (動画視聴) (5) 精神科医療と患者の同意: 強制入院制度と患者の同意 (6) 地域医療と法: 地域における医療の継続と再犯防止対策 (7) 医療と行政法: 医療と個人情報保護法 (8) 少年鑑別所 (法務少年支援センター) の役割: 非行臨床の現場から (9) 医療と医師の届出義務: 警察と検察 (10) 医療と刑事法: 刑事裁判と責任能力鑑定 (11) 医療と民法: 医療訴訟についてー医事鑑定を中心にー (12) 医療と法: 法曹実務家の経験をもとに一民事医療過誤訴訟一				

- (13) 医療と法：医療人の視点で見た法令・制度（臨床医と弁護士を経験して）
(14) 医療と福祉と司法の架け橋
(15) コロナ禍と法：人権問題を考えてみる

自学自習に関するアドバイス

事前にMoodleに資料をアップしますので、一通り目を通しておくと、授業および授業後のレポートに取組みやすいと思います。

教科書・参考書等

特に指定せず、Moodleで資料を配布する。六法など法律書や専門書は必要ない。

オフィスアワー 授業前後に歓迎いたします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

*六法など法律書がなくても学習できるように配慮します。

*本授業の内容は平成27年度開講の医学部開設科目

「医療と法規」と同じ内容であるため、平成27年度に当該科目を受講した学生は本授業を受講できません。

教員の実務経験との関連

医療関係に精通する弁護士や、元裁判官が、実務経験をもとに、医療と法の連携や、医療訴訟等に関して講義する。

ナンバリングコード B3LAA-cbaG-10-Ef1 授業科目名 (時間割コード:050102) 海外体験型異文化コミュニケーションII Study Abroad:Communicating Across Cultures II 海外体験型異文化コミュニケーション Study Abroad:Communicating Across Cultures	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 4Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局 : 大教センター DPコード : cba	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹	関連授業科目 海外体験型異文化コミュニケーションI		
	履修推奨科目 海外体験型異文化コミュニケーションI		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間) (海外体験型異文化コミュニケーションIIでは、春季休暇中に約2週間の現地(台湾)研修を実施。詳細は下記。)			
授業の概要 <p>本授業は、皆さんが海外において異文化を体験できるような知識と技能を習得するための内容を提供します。海外留学の入門編であると考えてください。日本とゆかりの深い台湾は、経済的結びつきも強く、アジアの重要な拠点です。現地の研修では、台湾中部の嘉義市に所在する台湾国立嘉義大学に行き、台湾について現地で学ぶだけでなく、現地での学生同士のディスカッションを通して、国際コミュニケーション力を養います。実際に異文化を見聞し、話し合う経験を積むことは、台湾に限らず他の国々の人たちとコミュニケーションする際にも役立ちます。本授業は、第1回から第5回(2012年～2016年)まで、タイ王国で実施されましたが、2017年の6回目から、研修先を台湾へ移しました。2023年度で、台湾での研修は4回目となります。</p> <p>【重要】海外体験型異文化コミュニケーションIIでは、本学での準備に加え、台湾へ行って研修を行います。海外体験型異文化コミュニケーションIはその準備段階となります。第3クォーターの間に、現地での研修に参加へ向けて、積極的に検討してもらいます。</p> <p>【重要】海外体験型異文化コミュニケーションIIは、台湾での研修に参加する意志のある学生のみ登録してください。</p> <p>【重要】海外体験型異文化コミュニケーションIIのみを履修して研修に参加することも可能ですが、できるだけ海外体験型異文化コミュニケーションIも合わせて受講してください。</p>			
授業の目的 本授業の目的は、実際に海外に滞在し、日本国内で学習した内容を現地での体験を通して確かめ、新たな知見へと発展させる「経験」をすることです。異文化を背景とする人々との交流実践を積み、グローバル社会で求められる国際コミュニケーション力を伸ばします。			
到達目標			
1. 日本や自分自身のことを台湾の学生たちに日本語・中国語・英語で紹介して、発信することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 世界の中の日本の位置づけを理解し、「学生大使」としての意識をもって取り組むことができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 海外での学習体験によって、視野を広げると共に、成熟した市民として行動することができる。			
成績評価の方法と基準 <p>【注意】海外体験型異文化コミュニケーションIIについては、研修後の最終報告書の提出とチェックを義務付けているため、提出状況によっては成績発表が遅れる場合もある。</p> <p>(以下は、研修時期によって変更する可能性あり)</p> <p>第4クォーター(海外体験型異文化コミュニケーションII) 事前の取組: 20%(特に到達目標3に対応) 海外研修での取組・貢献: 30%(特に到達目標1と3に対応) 帰国後のレポート提出: 30%(特に到達目標2に対応) 発表会への参加: 20%(特に到達目標1と3に対応)</p> <p>本科目は現地研修を含み、授業・演習・発表・ガイダンス等、関連する全てを全体として評価するものです。したがって、1つでも不参加の場合は、単位を認定できなくなることがあるので注意してください(やむを得ない事情を除く)。</p>			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。			

優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。
良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。
可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。
不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。
合格又は了 到達目標を達成している。
不合格 到達目標を達成していない。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【本学での事前学習】

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

第3クォーター

海外体験型異文化コミュニケーションIのシラバスを参照してください。

第4クォーター

- (9) イントロダクション
- (10) 中国語の講習会その1 (講師は、本学に留学中の嘉義大学生)
- (11) 中国語の講習会その2 (講師は、本学に留学中の嘉義大学生)
- (12) 香川大学紹介プレゼンテーションの準備
- (13) 香川大学紹介プレゼンテーションの予行演習
- (14) 中国語による自己紹介・プレゼンテーションの準備、予行演習
- (15) 予備日
- (16) 出国手続き、危機管理に関する講習

【現地での研修 (これまでの例に基づく案)】

- 顔合わせ、キャンパスツアー
- 中国語研修、課外研修 (昆虫博物館)
- 中国語研修、課外研修 (ヒノキ公園、嘉義公園)
- 中国語研修、課外研修 (孔子廟、市民朝市場)
- 中国語研修、課外研修 (パイナップル・ケーキヤ地元の銘菓の工場)
- プレゼンテーション、送別会

【帰国後、学内で】

- 成果発表会準備
- 成果発表会

【自学自習のためのアドバイス】

- (10) 中国語の復習・練習 (3時間)
- (11) 中国語の復習・練習 (3時間)
- (12) 情報収集・準備 (3時間)
- (13) 修正および練習 (2時間)
- (14) 復習および練習 (2時間)
- (16) 手続きのチェック等 (2時間)

※渡航日は調整中です。

現地での授業や課外研修は、中・日・英の3か国語を使用。

嘉義大学生がバディとして接してくれます。

教科書・参考書等

教材は必要に応じて授業中配布

オフィスアワー ロン： 火曜日 15:00～16:00 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

高水： 火曜日 15:00～16:00 「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 海外体験型異文化コミュニケーションIの受講中に、実際に台湾での研修に参加するかどうかを決定することが可能です。参加を決定した場合は、海外体験型異文化コミュニケーションII (高度教養科目) の履修登録が必要です。
- 受講人数はおおよそ20名までを想定。
- 海外研修費 (為替レートや航空運賃にもよるが、約25万円を想定) は自己負担。
- 台湾への渡航前、本学で開催する危機管理セミナーに出席すること。
- 台湾への渡航は担当教員が全行程を同行。
- 現地での宿泊：大学の施設

●嘉義大学研修の前後：台北での研修・見学あり。

ナンバリングコード B3LAA-caeG-10-Pg1 授業科目名 (時間割コード:050103) サーバント・リーダー養成入門Ⅱ Introduction to Servant Leader Training Ⅱ 高度教養教育科目・広範教養教育科目 サーバント・リーダー養成入門Ⅱ Introduction to Servant Leader Training Ⅱ「カルチャーシェアリング」 Culture Sharing	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士：応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局 ：大教センター DPコード：cae	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 実験・実習 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 早川 茂	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 実習90分×8回 + 自学自習：準備学習8時間 事後学習8時間			
授業の概要 「カルチャーシェアリング」を履修する 本授業は第1クォーター定時で実施したサーバント・リーダー養成入門Ⅰの素養に基づいて、インドネシア学生と交流し、お互いの言語・文化を理解するとともに、異文化の壁を乗り越え多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを語る実践的コミュニケーション能力を身につける。そのため、サーバント・リーダー養成入門Ⅰの履修者のみを対象として実施する。本授業は香川県内農山漁村で行う滞在型フィールドワーク（1泊2日）から成り、夏期休業中に集中実施する。			
授業の目的 グローバルな視野を養成するために、日本・インドネシアの言語・文化を理解し、多様な主体との協調を通じて地域の未来ビジョンを語る能力を身につける。			
到達目標			
「カルチャーシェアリング」 ・相手国の学生と共に暮らすことができる（関心・意欲）・英語またはインドネシア語で、自国の生活・文化を説明することができる（技能・判断）・英語またはインドネシア語で、自らの未来ビジョンを語る（知能・理解） ・共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応			
成績評価の方法と基準 ・合宿活動中の活動内容（20%）、活動終了時のプレゼンテーション及び討論内容（20%）、提出されたレポート内容（60%）に基づき評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
「カルチャーシェアリング」 （対面授業） 香川県内の農山漁村（中山地区）で行う滞在型フィールドワーク（1泊2日）において、インドネシアの学生と共に活動する。お互いに自国の農山漁村の文化に関して討論し、プレゼンを行う。8月下旬の夏期休業中に集中実施する。 第1回（対面講義）第2クォーター 7月31日（月曜日）5校時終了後にガイダンスを行う。 第2回 現地（実習地小豆島）を訪問する前に、オリエンテーションを実施する。 第3回 小豆島中山地区での棚田調査1 第4回 小豆島中山地区での棚田調査2 第5回 調査結果に基づくグループディスカッション 第6回 中山地区住民への聞き取り調査及びカルチャーシェアリング 第7回 中山地区住民への調査報告及び地域活性化への提言			

第8回 英語による成果発表会

自学自習について、

- ・滞在する農山漁村の概要を学ぶ
- ・インドネシアの文化の概要について学ぶ、あいさつ程度のインドネシア語を学ぶ

教科書・参考書等

関連プリント配布

オフィスアワー SUIJI推進室（農学部DS301、BW306） 月曜日、水曜日 10:00～15:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業は、SUIJIサーバント・リーダー養成プロジェクトで展開する国内及びインドネシアにおける農山漁村サービスラーニング・プログラムへの参加を希望する学生、及び異文化理解に興味ある学生を対象とする。

主題 サーバント・リーダー養成入門Ⅰ「地球未来創成入門」を必ず履修すること。

カルチャーシェアリングにおいて宿泊費・交通費が必要になる場合もある。

保険については、学研災及び学研賠に加入すること。

ナンバリングコード B3LAA-cbxG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 050104) Plastics, the environment and human society Plastics, the environment and human society Plastics, the environment and human society	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 後期火3	対象年次 1～
	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局: 大教センター DPコード: cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習の時間60時間			
授業の概要 This class consists of three parts. Part 1 introduces the world of plastics, from its invention to the current stage of production. Part 2 looks into the negative impact of plastic use on the environment from the viewpoint of marine, air, and land. Part 3 probes the role of plastic on human society, especially on the questionable effects on human diet and health.			
授業の目的 In this class, students get the opportunity to equip themselves with the fundamental knowledge on plastics and the negative effects it has on the environment and on human society.			
到達目標			
After this course, students should be able to achieve the following two targets. Target 1: Consistent with the required standards of general education in the ability to search for solutions to problems (c. 問題解決・課題探求能力), students should be able to work and collaborate with fellow students to think about the problem of plastic pollution. Target 2: Similarly, in line with the required standards of general education in knowledge attainment and understanding (b. 知識・理解), students should be able to understand the current situation of plastics pollution in the air, water, and on land, and its negative impact on the environment and human society.			
成績評価の方法と基準			
Students are graded according to the following: 1. Field work and report 30% (in response to the first target on the ability to search for solutions to problems.) 3. Group presentation on subject matter 30% (in response to the second target on knowledge attainment and understanding on plastics pollution and its impact on the environment and human society.) 4. Final report on lessons learned and future behavior 40% (in response to the second target on knowledge attainment and understanding on plastics pollution and its impact on the environment and human society.)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
(Tentative schedule)			
1. Introduction of the course <Part 1: The world of plastics> 2. How it was invented and produced 3. The merits and demerits plastic 4. The ubiquity of plastics in everyday life 5. Field work #1 <Part 2: The impact of plastic use on the environment> 6. Marine plastic garbage 7. Microplastics in the atmosphere 8. Plastics pollution on land			

9. Mid-term presentation by students
 10. Field work #2
- <Part 3: Effect of plastic on human health>
11. Microplastic particles in the air
 12. Toxic substances in the terrestrial and marine environment
 13. Direct consumption of plastics via food chain and water supply
 14. Final presentation by students
 15. Final presentation by students

Classes are to be held as noted below, and students are advised to follow the study guidelines so as to enhance their learning capacity and thereby, deriving the maximum benefits from the classes.

Preparation

Students are to read through the class material before coming to class. The class material shall be announced a week before the class.

Class participation

During the class, students shall be divided into teams whereby members shall discuss a given topic and shall make a presentation of the results from discussions.

教科書・参考書等

Plastics: the cost to society, the environment, and the economy (2021, WWF report)
Plastic and Health: The Hidden Costs of a Plastic Planet (2019)
These materials are in electronic format and shall be provided to students.

オフィスアワー Day & time: Every Tuesday, 13:00-14:00

Location: International Office

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

Students should be informed that ① groupwork is often required in and out of class ② participation in fieldwork (outside of class) is mandatory.

教員の実務経験との関連

The lecturer has been involved rather deeply with marine environmental issues for more than two years. Currently, he is a member of the Kagawa University contingent that plays an important role in the 'Setouchi Oceans X' project, which is propelled jointly by Kagawa, Ehime, Okayama, and Hiroshima Prefectures.

ナンバリングコード B3LAA-cbaG-5N-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 050105) ヒューマニティーズプログラム課題研究Ⅰ Humanities Research ヒューマニティーズプログラム課題研究(Humanities Research)	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～	
	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局 : 大教センター DPコード : cba	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 佐藤 慶太, 唐澤 晃一, 三宅 岳史, 守田 逸人, 最上 英明, ノイマン フロリアン, ロン リム, マクラハン・ジェラディーン, ウィリー・イアン・デビッド, 園部 裕子, 緒方 宏海, 小西 憲一, 蝶 慎一, 湯浅 翔馬, 平 篤志, 辻 梨花	関連授業科目 ヒューマニティーズ(人文学)プログラム対象科目			
	履修推奨科目 ヒューマニティーズ(人文学)プログラム対象科目			
学習時間 授業90分×15回+自学自習(事前学習30時間相当+事後学習30時間相当)				
授業の概要 これまで履修したプログラム対象科目の内容を踏まえて、レポートを作成する。具体的には、レポートのテーマ設定、資料・文献収集、レポート執筆、内容についてのプレゼンテーションというステップを踏む。				
授業の目的 自分の問題関心に基づいて人文学に関わるテーマを設定し、それについて自らの考えを論証できるようになる。				
到達目標				
①自分の問題関心に基づいて、考察のテーマを設定することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ②設定したテーマに関する文献や資料を収集することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ③収集した資料、文献を読解し、ポイントとなる部分を整理することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ④収集した資料、文献に基づいて、設定したテーマについての自分の考えを、論理的に文章化することができる。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「課題解決のための汎用的スキル」に対応) ⑤文章化した内容を要約して、発表することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)				
成績評価の方法と基準 授業への参加(教員とのディスカッション: 到達目標①に対応: 20%)、レポートの作成過程(到達目標②、③、④に対応: 30%)、中間報告(到達目標⑤に対応: 20%)、最終プレゼンテーション(到達目標⑤に対応: 30%)を総合的に評価する。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】 第1回 レポート作成についてのガイダンス 第2回 テーマ設定についての検討① 第3回 テーマ設定についての検討② 第4回 テーマ設定についての検討③				

- 第5回 文献、資料収集の実践①
- 第6回 文献、資料収集の実践②
- 第7回 アウトライン作成
- 第8回 中間報告
- 第9回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ①
- 第10回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ②
- 第11回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ③
- 第12回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ④
- 第13回 プレゼンテーションの資料作成と練習
- 第14回 報告会①
- 第15回 報告会②

【授業方法】

基本的に、教員と学生がディスカッションをする形式で進めます。第1回および第14・15回以外の授業は、レポートの進捗状況に応じて、適宜日程を決定します。

☆この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

①授業中に次回の授業までの課題を提示します。この課題をこなすことが、授業の前提になりますので、忘れずに取り組んでください。

②中間報告、最終報告のためには、プレゼンテーション資料およびレポートの作成が必要です。授業で学んだことを踏まえて、授業時間外に作成する必要があります。詳しくは授業中に指示します。

①について、各回4時間程度の準備、②については、中間報告に6時間程度、最終報告に6時間程度の準備が必要です。なお、個人によって作業のスピードは異なるので、時間はあくまでも目安です。

教科書・参考書等

授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 全般的な事柄については、佐藤まで。木曜日13:00～15:00（佐藤慶太研究室、幸町北5号館5F）。個別的な事柄については、それぞれの担当教員まで。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業を履修する学期に、ヒューマニティーズプログラム対象科目を12単位取得できる学生のみ、履修可能です。

ナンバリングコード B3LAA-cbaG-5N-Eg2 授業科目名 (時間割コード: 050106) ヒューマニティーズプログラム課題研究Ⅰ Humanities Research ヒューマニティーズプログラム課題研究(Humanities Research)	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 後期集中	対象年次 1～	
	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局 : 大教センター DPコード : cba	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 佐藤 慶太, 唐澤 晃一, 三宅 岳史, 守田 逸人, 最上 英明, ノイマン フロリアン, ロン リム, マクラハン・ジェラディーン, ウィリー・イアン・デビッド, 園部 裕子, 緒方 宏海, 小西 憲一, 蝶 慎一, 湯浅 翔馬, 平 篤志, 辻 梨花	関連授業科目 ヒューマニティーズ(人文学)プログラム対象科目			
	履修推奨科目 ヒューマニティーズ(人文学)プログラム対象科目			
学習時間 授業90分×15回+自学自習(事前学習30時間相当+事後学習30時間相当)				
授業の概要 これまで履修したプログラム対象科目の内容を踏まえて、レポートを作成する。具体的には、レポートのテーマ設定、資料・文献収集、レポート執筆、内容についてのプレゼンテーションというステップを踏む。				
授業の目的 自分の問題関心に基づいて人文学に関わるテーマを設定し、それについて自らの考えを論証できるようになる。				
到達目標				
①自分の問題関心に基づいて、考察のテーマを設定することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ②設定したテーマに関する文献や資料を収集することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ③収集した資料、文献を読解し、ポイントとなる部分を整理することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ④収集した資料、文献に基づいて、設定したテーマについての自分の考えを、論理的に文章化することができる。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「課題解決のための汎用的スキル」に対応) ⑤文章化した内容を要約して、発表することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)				
成績評価の方法と基準 授業への参加(教員とのディスカッション: 到達目標①に対応: 20%)、レポートの作成過程(到達目標②、③、④に対応: 30%)、中間報告(到達目標⑤に対応: 20%)、最終プレゼンテーション(到達目標⑤に対応: 30%)を総合的に評価する。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】 第1回 レポート作成についてのガイダンス 第2回 テーマ設定についての検討① 第3回 テーマ設定についての検討② 第4回 テーマ設定についての検討③				

- 第5回 文献、資料収集の実践①
- 第6回 文献、資料収集の実践②
- 第7回 アウトライン作成
- 第8回 中間報告
- 第9回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ①
- 第10回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ②
- 第11回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ③
- 第12回 レポートの段階的な執筆とブラッシュアップ④
- 第13回 プレゼンテーションの資料作成と練習
- 第14回 報告会①
- 第15回 報告会②

【授業方法】

基本的に、教員と学生がディスカッションをする形式で進めます。第1回および第14・15回以外の授業は、レポートの進捗状況に応じて、適宜日程を決定します。

☆この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

①授業中に次回の授業までの課題を提示します。この課題をこなすことが、授業の前提になりますので、忘れずに取り組んでください。

②中間報告、最終報告のためには、プレゼンテーション資料およびレポートの作成が必要です。授業で学んだことを踏まえて、授業時間外に作成する必要があります。詳しくは授業中に指示します。

①について、各回4時間程度の準備、②については、中間報告に6時間程度、最終報告に6時間程度の準備が必要です。なお、個人によって作業のスピードは異なるので、時間はあくまでも目安です。

教科書・参考書等

授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 全般的な事柄については、佐藤まで。木曜日13:00～15:00（佐藤慶太研究室、幸町北5号館5F）。個別的な事柄については、それぞれの担当教員まで。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業を履修する学期に、ヒューマニティーズプログラム対象科目を12単位取得できる学生のみ、履修可能です。

ナンバリングコード B3LAA-caxG-5N-Ep2 授業科目名 (時間割コード:050107) DRIイノベーター養成プログラム課題研究 DRI Research DRIイノベーター養成プログラム課題研究 DRI Research	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局 : 大教センター DPコード : cax	対象学生 特プロ履修学生のみ 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 PBL	単位数 2	
担当教員名 小坂 有資, 石塚 昭彦, 高橋 亨輔, 藤澤 修平	関連授業科目 DRIイノベーター養成プログラム対象科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 これまで履修したプログラム対象科目の内容を踏まえて、課題研究レポートとそのプレゼンテーションを行います。具体的には、課題研究レポートの課題設定、データの収集とそれらをもとにした分析や活動(プロジェクトやプロトタイプの開発等)、課題研究レポートの執筆とそのプレゼンテーションというステップを踏みます。			
授業の目的 DRIに関連する課題を設定し、その課題を探求もしくは解決することができる。さらに課題を探求もしくは解決することで、地域社会にイノベーションを創出するためのヒントを見つけることができる。			
到達目標			
1. DRIに関連する課題を設定することができる。 2. DRIに関連する課題を探求もしくは解決するために、研究や活動(プロジェクトやプロトタイプの開発等)を行うことができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 研究や活動を通じてみつけた地域社会にイノベーションを創出するためのヒントについて説明することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 中間発表 40%(到達目標1と2に対応)、最終発表 40%(到達目標1と2と3に対応)、レポート 20%(到達目標1と2と3に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 レポート・プレゼンテーション資料作成についてのガイダンス 第2回 DRIに関連する課題設定1 第3回 DRIに関連する課題設定2 第4回 課題を探求もしくは解決するための方法の検討(データ・AIを活用した実施計画の作成など) 第5回 データや資料等の収集のための調査や実験等1 第6回 データや資料等の収集のための調査や実験等2 第7回 収集したデータの分析や活動(プロジェクトやプロトタイプの開発等)1 第8回 収集したデータの分析や活動(プロジェクトやプロトタイプの開発等)2 第9回 中間発表会 第10回 レポート・プレゼンテーション資料の作成1 第11回 レポート・プレゼンテーション資料の作成2 第12回 レポート・プレゼンテーション資料のブラッシュアップ1 第13回 レポート・プレゼンテーション資料のブラッシュアップ2 第14回 全体発表会1 第15回 全体発表会2			
【授業方法】			

前期集中（夏休みを予定）で、1日に主に3回ずつ授業を実施します。第1回および第14・15回以外の授業は、調査や実験等、分析や活動（プロジェクトやプロトタイプの開発等）の進捗状況に応じて、適宜日程を決定します。全体発表会は、D・R・Iすべてのコースの学生が集まって行います。

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1～4回 事前に「はじめて学ぶDRI」の授業内容をふりかえる。第1～4回の授業内容をふりかえる。（15時間）

第5～8回 中間発表会の発表内容を完成させる。（20時間）

第9～13回 全体発表会の発表内容を完成させる。（20時間）

第14～15回 全体発表会の発表内容に対する講評をもとにして、発表内容の改善点をレポートにまとめる。（5時間）

教科書・参考書等

授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 水曜日12～14時・幸町北キャンパス5号館5階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業を履修する学期に、DRIイノベーター養成プログラム対象科目を、本授業を除いて10単位以上取得できる見込みのある学生のみ履修可能です。

フィールドワークを行う可能性があるため、「学生教育研究災害傷害保険（略称：「学研災」）」と「学生教育研究賠償責任保険（略称「学研賠」）」に加入してください。

ナンバリングコード B3LAA-cabG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:050108) 知プラe科目 インドネシアの文化と会話 Indonesian language and culture インドネシアの文化と会話/ Indonesian language and culture	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 後期集中	対象年次 1～
	水準 学士:応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局 : 大教センター DPコード : cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 島上 宗子	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】インドネシア語、インドネシア文化、多民族国家 世界最大の島嶼国家であり、多様な民族からなるインドネシアは、日本とも歴史的・経済的に深いつながりをもっている。インドネシア語の初歩的な会話と基本文法を、インドネシアの習慣や文化を交えながら学ぶことで、インドネシアの言語と文化に対する理解を深める。			
授業の目的 インドネシア語の初歩的な会話と基本文法を、文化的特徴を交えながら、学ぶ。			
到達目標			
1. 初歩的なインドネシア語の基本文法を理解する。 2. インドネシア語で自己紹介や挨拶ができる。 3. インドネシア語で否定文、疑問文、受動態の文章が作れる。 4. インドネシア語で数字や時間に関わる簡単な表現ができる。 5. インドネシアの言語をめぐる特徴について説明できる。 6. インドネシアと日本の文化的違いを理解し、その主な違いを説明できる。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 すべての課題の提出がない場合には評価しない。 各回の小テスト・課題の提出を行うことで、成績評価の対象とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①インドネシア語を発音してみよう ②自己紹介 ③家族の紹介 ④こんにちは ⑤これ、何ですか？ ⑥me動詞 ⑦数字 (今何時？これいくら？) ⑧受動態 【授業時間外学習について】 動画や小テスト繰り返し視聴し、受験できるようになっているので、理解できるまで取り組んでください。 【バリアフリー対応】 動画の音声文字起こししたテキスト資料(PDF)あり。動画に字幕あり。 【e-Learning科目の履修登録に際して】			

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

参考書1 書名 インドネシア語が面白いほど身につく本
I S B N 4046001283 著者名 ドミニクス・バタオネ、近藤由美
出版社 KADOKAWA/中経出版 出版年 2013年
金額 1760円

参考書2 書名 インドネシア検定-ASEAN検定シリーズインドネシア検定公式テキスト
I S B N 4839602417 著者名 加納啓良(監修)
出版社 めこん 出版年 2011年
金額 2,200円

オフィスアワー Moodleのフォーラムを利用する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修（コンテンツ視聴、課題提出）を心がけてください。主体的・計画的に取り組まなければ、単位を落とすことにつながるので注意してください。

教員の実務経験との関連

インドネシアでの長期滞在・調査・国際協力事業に携わった経験のある教員が、インドネシアの文化と会話に対する理解を高めるための授業を行う。

ナンバリングコード B3LAA-cbxG-10-Le2 授業科目名 (時間割コード:050109) 知プラe科目 海洋地球科学概論 Marine Geoscience 海洋地球科学概論 (知られざる「海洋」の理解と地球における役割) / Marine Geoscience (Oceanography and Earth Science)	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:応用科目 分野 高度教養教育科目	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 2	
担当教員名 村山 雅史	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×15回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】 海洋の動態, 海洋地球科学, 生物地球化学サイクル, 地球環境 太陽系惑星で唯一存在する海洋の成り立ちと役割について学び, 地球規模での様々な物質循環や気候変動について理解する。			
授業の目的 受講生は, 地球表層環境における海洋の果たす役割をよりよく理解するために, 海の成り立ち, 海水の循環と物質循環, 海底の動きや地球内部動態, 堆積物に刻まれた地球環境の歴史と生命の進化に関する事を学ぶ。とくに, 海洋の成り立ちや地球誕生から表層圏 (大気圏, 水圏, 地圏, 生物圏) の生命進化の過程で, 海洋の果たしてきた役割を理解する。			
到達目標			
海洋学の理解, 地球科学の理解, 地球表層環境の理解, 学習手法の理解 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 各講義の終了後に講義内容に関する10点満点の小テストをLMS上で実施する。定められた期限内に15回の講義コンテンツのうち最低10回以上の講義を聴き, 小テストに解答することが必須条件である。15回の講義終了時に, 15回の小テストの合計点 (150点満点) を100点満点に換算して評価する。なお期末試験は実施しない。			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業スケジュール】 第1回 地球における海洋の役割 第2回 海はどのように形成されたか? 第3回 海水の性質 第4回 海の循環 第5回 海の循環にともなう物質循環 第6回 海底地形 第7回 海底堆積物の種類I 第8回 海底堆積物の種類II 第9回 海洋観測 (手法, 歴史, 船の生活) について 第10回 海洋底に記録される環境の記憶 第11回 新生代気候変動「地球寒冷化」 第12回 地球温暖化と海洋酸性化 第13回 プレートテクトニクス 第14回 海底下生命圏の研究 第15回 海底資源 (メタンハイト?レート)			
【授業時間外学習について】			

参考図書を熟読すること，受講ノートの復習

【e-Learning科目の履修登録に際して】

本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム（ドリームキャンパス）の履修登録とは別にe-Learningシステム（Moodle）の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。

<https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/>

教科書・参考書等

参考書1 書名 海洋地球化学

I S B N 978-4-06-155237-1 著者名 蒲生俊敬編

出版社 講談社サイエンティフィック 出版年 2014

金額 4,600

参考書2 書名 海洋地球環境学-生物地球化学循環から読む

I S B N 978-4-13-060752-0 著者名 川幡穂高

出版社 東大出版会 出版年 2011

金額 3,600

参考書3 書名 地球・惑星・生命

I S B N 978-4-13-063715-2 著者名 日本地球惑星科学連合

出版社 東大出版会 出版年 2020

金額 2,300

参考書4 書名 地質学I：地球のダイナミクス

I S B N 4-00-006240-9 著者名 平朝彦

出版社 岩波書店 出版年 2001

参考書5 書名 地質学II：地層の解説

I S B N 4-00-006241-7 著者名 平朝彦

出版社 岩波書店 出版年 2004

参考書6 書名 地質学III：地球史の探求

I S B N 4-00-006242-8 著者名 平朝彦

出版社 岩波書店 出版年 2007

オフィスアワー moodle（e-learningシステム）上の専用掲示板「お知らせ」を利用し連絡すること

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

e-learning形式の講義であるため、履修に必要な手続きをしておく必要がある。講義コンテンツはmoodle(LMS)システムを通して配信するので、moodleの使い方等について十分理解しておくこと。また、ノートを準備し、受講中に要点や専門用語を書き留めて、自分なりの講義ノートを作成すること。理解できなかった箇所は、推薦図書を参考に必ず復習をおこなうこと。

ナンバリングコード B3LAA-cbxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード:050110) 動画で学ぶDRIスタンダード 動画で学ぶDRIスタンダード	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 前期集中	対象年次 1～	
	水準 学士:応用科目 分野 高度教養教育 科目	提供部局 : 大教センター DPコード : cbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム	
	授業形態 講義 e ラ ーニング	単位数 1		
担当教員名 寺尾 徹	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 (コンテンツ視聴60分+自学自習(事後学習)2時間)×27回				
授業の概要 地域活力を維持・向上させるイノベーションと新たな価値の創造を通じて地域社会の課題解決に貢献するためには、DRI能力の基盤的な資質を身に付ける必要がある。この授業はDRI能力を構成する3つの要素であるデザイン思考・リスクマネジメント・インフォマティクスに関する基本的な内容について講義する。				
授業の目的 DRI能力を構成する3つの要素であるデザイン思考・リスクマネジメント・インフォマティクスに関する基本的な内容を理解し、DRI能力が地域におけるイノベーションや新たな価値の創造に活かすことができるようになること。				
到達目標				
1. DRI 能力デザイン思考・リスクマネジメント・インフォマティクスの基本的な内容について説明できるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. DRI 能力と地域におけるイノベーションや新たな価値の創造との関係性やその実例について説明できるようになる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。				
成績評価の方法と基準 成績評価の方法 DRIアセスメントテストの合格をもって合格とする。				
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】 [デザイン思考] D1. デザイン思考のベースとなるロジカルシンキング D2. デザイン思考とは? D3. 成功事例から学ぶデザイン思考とアナロジー思考 [リスクマネジメント] R1. なぜ今の時代にリスクマネジメントが必要か?/リスクとは? R2. 災害に学ぶために/海外でのリスクマネジメント R3. 医療とリスクマネジメント/社会インフラ管理のリスク R4. リスクと保険/「財産を守る」リスクマネジメント R5. 情報セキュリティの基礎 R6. リスク評価の基礎 R7. リスクマネジメントの基礎 R8. リスクマネジメントとデザイン [インフォマティクス] I1. 香川大学の教育の柱 -DRI教育における 'I' /なぜインターネットが利用できるのか I2. 安全にインターネットを利用しよう! I3. データの扱い方(データの導入・基礎編) I4. データの扱い方(データの心得編) I5. 情報セキュリティと暗号 I6. 人工知能 I7. コミュニケーションと協調作業による論理性・客観性の補完				

I8. システム的思考に基づく問題解決

【授業の開講形態について】

この科目はe-Learning授業を行います。

【授業及び学習の方法】

Moodle上のe-Learningコンテンツを視聴し、DRIアセスメントテストを受験すること。

【自学自習のためのアドバイス】

各e-Learningコンテンツ理解の定着のため、内容をまとめる60分の事後学習を行うこと。

教科書・参考書等

特定の教科書はなく、オリジナルの講義資料を提示・配布する。
講義内容に応じて参考書籍を適宜紹介する。

オフィスアワー 金曜日11:00から12:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

オンデマンドのe-Learning授業です。計画的にコンテンツを視聴し、事後学習を欠かさないこと。

ナンバリングコード B3LAA-abcG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 050408) Study Abroad Study Abroad 西オーストラリア大学 英語研修 / ブルネイ・ダルサラーム大学 Discover Brunei Course	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 前期火4	対象年次 1～
	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育 科目	提供部局 : 大教センター DPコード : abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 2	
担当教員名 滝川 祐子	関連授業科目 履修推奨科目 Communicative English I/II		
学習時間 事前研修 (学内講義90分×10回) + 海外の大学での研修 (4～5週間) + 自学自習			
授業の概要 今日、グローバルな視点から世界や日本を捉えることや、多様性を理解することが求められています。このコースはそのためにコミュニケーション能力の向上と国際的感覚を身に付けることを目的とした人材育成プログラムです。このコースは、①本学での事前研修 (必要な手続き、講義、英語によるプレゼンテーションの練習) と、②本学の学術交流協定校である西オーストラリア大学、またはブルネイ・ダルサラーム大学における短期研修を受講するという、2本柱で構成されています。			
授業の目的 英語を用い、海外で研修を受講し生活体験することで、世界に通用する視野を広げるとともに、様々なスキルの向上の必要性に自発的に気づき、今後さらに自己研鑽を目指す機会となることを目的とします。プログラムを通して、語学力、プレゼンテーション能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、新たな発想や創造性を身に付けることを目指します (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
到達目標			
1) 留学するために必要な諸手続きを知り、必要書類を作成できる。 2) 英語を使って、自分の表現したいことを相手の反応や感情を意識しつつ自分のことばで伝える。 3) 発表やレポートにおいて、内容を整理し明確に伝えることができる。 4) 現地の文化や社会に関する知識を深める。 5) 現地での留学生活・学生との交流を通し、多様性について理解を深める。			
1～3は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」および「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。 4～5は共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応。			
成績評価の方法と基準 成績評価の割合は以下の通りであるが、全ての項目 (1から3) は必須である。 1) 事前研修における取り組み……30% (特に到達目標1, 4に対応) 2) 派遣先の大学で発行する修了証および派遣先の大学で発行する評価証 (成績証) 西オーストラリア大60% ブルネイ・ダルサラーム大20% (特に到達目標2, 4に対応) 3) 成果報告書……西オーストラリア大10% ブルネイ・ダルサラーム大50% (特に到達目標3, 5に対応) なお、成績登録は10月下旬になります。注意してください。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<事前研修> 【西オーストラリア大学】 1. ガイダンス 2. 応募書類確認 申込手続き説明 3. 応募書類確認 申込手続き説明 4. オーストラリアについて 5. 英語コミュニケーションスキル① 自分について語る 6. 英語コミュニケーションスキル② 香川について語る			

7. 英語コミュニケーションスキル③ 日本について語る
 8. 講義「Japan-Australia/Brunei Relations」
 9. Workshop「昨年度の海外語学研修参加者の声」
 10. 危機管理学習
- このほかにオンラインでプレースメントテストを受験。

【ブルネイ・ダルサラーム大学】

1. ガイダンス
2. 応募書類確認 申込手続き説明
3. ブルネイ・ダルサラームについて
4. ブルネイの歴史とイスラム文化について
5. 英語コミュニケーションスキル① 自分について語る
6. 英語コミュニケーションスキル② 香川について語る
7. 英語コミュニケーションスキル③ 日本について語る
8. 講義「Japan-Australia/Brunei Relations」
9. Workshop「昨年度の海外語学研修／ブルネイ留学者の声」
10. 危機管理学習

<現地研修>

【西オーストラリア大学】

夏休み期間中の5週間（2023年8月21日～9月22日）、西オーストラリア大学英語教育センターにて研修を受ける。研修時間数は、各週に20時間ずつで、合計100時間程度である。

【ブルネイ・ダルサラーム大学】

夏休み期間中の4週間ブルネイ・ダルサラーム大学にて開講されるDiscover Brunei Courseを受講する。研修時間数は、42時間のクラス授業と様々な学外見学・フィールドワークから成る。
※2023年夏休み期間中の該当プログラムの実施・期間については未定であるため、履修希望者は担当教員と事前に相談のこと。（2022年は8月1日～8月28日開講）

【以下、西オーストラリア大学、ブルネイ・ダルサラーム大学に共通】

<成果報告書>

研修中は「Weekly report」を提出する。そのレポートをもとに、研修終了後、1週間以内にA4サイズで4～5枚程度の報告書を提出する。

<自学自習>

事前指導期間においては、訪問する国や大学の情報収集をする。研修中は、研修の効果が十分に上がるよう、必要な予習、復習を行う。訪問国や訪問先について関心を持ち、自ら書籍等で知見を深めることが求められる。

<その他>

海外研修参加前と参加後にTOEIC-IPテストなどの英語能力試験の受験を奨める。
オンラインで事前に、現地担当者からの説明を受ける機会を設けることもある。

<注意>

現地での研修をより実りあるものとするために、事前研修中はGlobal Cafeのレッスンを積極的に活用して英語の基礎力を高めるようにしてください。

ブルネイ・ダルサラーム大学の開講期間は定期試験期間と重なる場合があります。その場合、参加開始日時については調整が必要となります。

教科書・参考書等

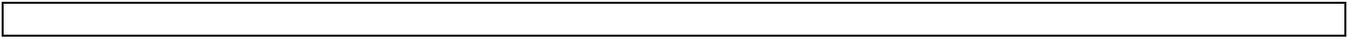
必要な資料は授業中に配布する。

オフィスアワー 木曜日 10:30-11:30（幸町キャンパス北第5館5階）；他の曜日の場合も含め、メールによる事前アポイントが必要。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※新型コロナウイルス感染状況によっては、現地での研修はできない可能性があります。

第3学期または第4学期に実施する留学報告会で、留学成果について報告すること。
海外研修に参加する学生は必ず、大学主催の危機管理セミナーに出席すること。
海外研修にかかる費用は受講生負担となる。費用の詳細はガイダンスで連絡する。



ナンバリングコード B3LAA-baxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 050501) ラテン語初歩 I Latin I ラテン語初歩 I Primary Latin I	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 前期金3	対象年次 1～
	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育 科目	提供部局: 大教センター DPコード: bax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 佐藤 慶太	関連授業科目 ラテン語初歩 II		
履修推奨科目			
学習時間 講義90分×15回+自学自習30時間(事前学習20時間、事後学習10時間程度)			
授業の概要 今日、日常生活においてラテン語を用いている人はほぼいません。しかし現在まで伝えられてきた文学や思想のうちには、ラテン語で書かれたものが多くあります。ラテン語を学べば、ヨーロッパを形作ってきた知的伝統にじかに触れることができます。また、現代の欧米語の文法構造や単語の多くはラテン語を源泉としているので、現代外国語を学ぶことにも役立ちます。この授業では、そんなラテン語を、初歩の初歩から、ゆっくり、じっくり学習していきます。			
授業の目的 ラテン語を学ぶことを通じて、古代ローマの文化とヨーロッパ文化について理解を深める。			
到達目標			
①ラテン語を正しく発音できる。 ②ラテン語文法の基礎を身につけて、簡単なラテン語文を訳すことができる。 ③ヨーロッパ文化におけるラテン語の重要性について、説明できるようになる。 (①、②共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応、③共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 ①ラテン語に関しては、毎回、宿題(教科書の練習問題)をこなすことを前提として、その達成状況によって評価します(到達目標①、②に対応)。 ②その他、ラテン語圏の文化について、調べ学習をしてもらいその成果を評価します(到達目標③に対応)。 ①80%、②20%の割合で評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) イントロダクション: ラテン語とはどんな言語か (2) 文字と発音、音節とアクセント、動詞活用① (3) 名詞活用①、動詞活用② (4) 名詞活用②、形容詞活用① (5) 未完了過去(直説法能動)、名詞活用③ (6) 未来(直説法能動)、前置詞、所格 (7) 不定詞(直説法現在能動)、名詞活用④ (8) 形容詞活用②、完了(直説法能動) (9) 過去完了、未来完了、名詞活用⑤ (10) 名詞活用⑥、現在、未完了過去、未来(直説法受動) (11) 名詞活用⑥、⑦ (12) 形容詞活用③、完了、過去完了、未来完了(直説法受動) (13) 動詞の主要部分、名詞活用⑧ (14) 能相欠如動詞、指示代名詞および限定代名詞 (15) まとめと復習			
【授業及び学習の方法】			

テキストの練習問題をつかって、ラテン語を日本語に翻訳するという作業が中心になります。授業では、課題の確認（答え合わせ）を行いますので、予習が不可欠です。

また、練習問題を解く合間に、古代ローマの文化、関連するヨーロッパ文化について、いくつかのトピックを取り上げて紹介します。後半では学生にも、調べ学習をしてもらい、発表をしてもらう予定です。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習についてのアドバイス】

ラテン語そのものの学習に関して言えば、教科書の練習問題を解いてくること（予習）、授業でやった内容を振り返ること（復習）、これにつきます。調べ学習については、事前に教員から調べ方・まとめ方についてアドバイスをします。

自学自習の目安は、全体で30時間です。ただし、問題を解く時間には個人差がありますので、これはあくまでも目安です。

教科書・参考書等

教科書：田中利光著『ラテン語初歩』岩波書店、3400円（生協の書籍部にて購入）

辞書、参考書等は授業で紹介します。

オフィスアワー 木曜日13:00～15:00 佐藤慶太研究室（教育学部5号館4階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・事前に必要な知識はありません。一からやっていきます。すこしでも興味があればそれが受講資格です。
- ・後期開講「ラテン語Ⅱ」と合わせて受講しないと、すべての文法項目をまなぶことができません。
- ・欠席するとわからなくなるのでやむ得ない場合を除いて欠席しないようにしましょう。

ナンバリングコード B3LAA-baxG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード: 050502) ラテン語初歩Ⅱ Latin Ⅱ ラテン語初歩Ⅱ Primary Latin Ⅱ	科目区分 高度教養教育科目	時間割 2023年度 後期金3	対象年次 1～
	水準 学士: 応用科目 分野 高度教養教育 科目	提供部局: 大教センター DPコード: bax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 佐藤 慶太	関連授業科目 ラテン語初歩Ⅰ		
	履修推奨科目 ラテン語初歩Ⅰ		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習30時間 (事前学習20時間、事後学習10時間)			
授業の概要 前期開講の「ラテン語Ⅰ」で身につけた文法の基礎と、ラテン語読解の技法を前提として、より複雑な文法事項を学習します。進展の程度にもよりますが、文法事項が習得できたら、ラテン語で書かれたまとまった文章をいくつか読んでいく予定です。並行して、古代ギリシアの文化と関連するヨーロッパ文化についても学びます。			
授業の目的 ラテン語を学ぶことを通じて、古代ローマの文化とヨーロッパ文化について理解を深める。			
到達目標			
①標準的なラテン語文法を身につけて、実際にラテン語で書かれた文章を読むことができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) ②ヨーロッパ文化におけるラテン語の重要性について、説明できるようになる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 ①ラテン語に関しては、毎回、宿題(教科書の練習問題)をこなすことを前提として、その達成状況によって評価します(到達目標①、②に対応)。 ②その他、ラテン語圏の文化について、調べ学習をしてもらいその成果を評価します(到達目標③に対応) ①80%、②20%の割合で評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) イントロダクションと前期の復習 (2) 疑問代名詞、不定代名詞、現在、未完了過去(接続法能動、受動) (3) 人称代名詞、所有形容詞、強意代名詞 (4) 完了、過去完了(接続法能動、受動)、条件文① (5) 条件文②、不定詞② (6) 不定詞③、関係代名詞 (7) 非人称動詞、分詞① (8) 分詞②、奪格の独立的用法 (9) 形容詞の比較 (10) 数詞、動名詞 (11) 動形容詞 (12) 命令法、目的分詞 (13) 読解演習① (14) 読解演習② (15) 読解演習③、まとめ			

【授業及び学習の方法】

テキストの練習問題をつかって、ラテン語を日本語に翻訳するという作業が中心になります。授業では、課題の確認（答え合わせ）を行いますので、予習が不可欠です。
また、練習問題を解く合間に、古代ローマの文化、関連するヨーロッパ文化について、いくつかのトピックを取り上げて紹介します。後半では学生にも、調べ学習をしてもらい、発表をしてもらう予定です。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習へのアドバイス】

ラテン語そのものの学習に関して言えば、教科書の練習問題を解いてくること（予習）、授業でやった内容を振り返ること（復習）、これにつきます。調べ学習については、事前に教員から調べ方・まとめ方についてアドバイスをします。
自学自習の目安は、全体で30時間です。ただし、問題を解く時間には個人差がありますので、これはあくまでも目安です。

教科書・参考書等

教科書：田中利光著『ラテン語初歩』岩波書店、3400円（生協の書籍部にて購入）
辞書、参考書については授業で紹介します。

オフィスアワー 木曜日13:00～15:00 佐藤慶太研究室（教育学部5号館4階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

前期開講「ラテン語Ⅰ」を履修していることを受講の条件とします。
欠席するとわからなくなるので、やむを得ない場合を除いて欠席しないこと。